

**製品名: カッパ軽鎖 (15R1) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe12897**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP,IF-P
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:1000-1:5000,IP 1:10-1:100,IF-P 1:1000-1:5000
分子量	12kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IGKC
別名	HCAK1; Ig kappa chain C region; IGKCD; Immunoglobulin InV;
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P01834
免疫原	全長天然タンパク質

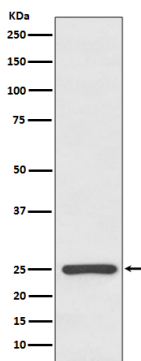
**背景**

免疫グロブリン重鎖には、IgG、IgA、IgM、IgD、IgEの5種類があります。IgGは4つのサブクラス、IgAは2つのサブクラスに分けられます。血清中では、IgAとIgGは4つのポリペプチド単位からなる単量体であり、IgMは5量体です。IgAはポリマーを形成することもあります。κ軽鎖抗体は、白血病、形質細胞腫、および特定の非ホジキンリンパ腫の同定に使用できます。免疫グロブリン軽鎖の定常領域。免疫グロブリンは抗体としても知られ、Bリンパ球によって産生される膜結合型または分泌型の糖タンパク質です。体液性免疫の認識段階では、膜結合型免疫グロブリンは受容体として機能し、特定の抗原に結合すると、Bリンパ球のクローン増殖と免疫グロブリン分泌形質細胞への分化を引き起こします。分泌型免疫グロブリンは、液性免疫のエフェクター期を媒介し、結合した抗原の排除をもたらします (PubMed:22158414、PubMed:20176268)。抗原結合部位は、一方の重鎖の可変ドメインと、それに関連する軽鎖の可変ドメインによって形成されます。したがって、各免疫グロブリンは、特定の抗原に対して顕著な親和性を示す2つの抗原結合部位を有します。可変ドメインは、V-(D)-J転座と呼ばれるプロセスによって形成され、その後、体細胞超変異を受ける可能性があり、抗原への曝露と選択を経て、特定の抗原に対する親和性成熟が可能になります (PubMed:17576170、PubMed:20176268)。

## 研究分野

免疫学

## 画像データ



ヒト血漿溶解物中のκ軽鎖発現のウェスタンブロット分析。